

第3回桜美林大学大学院老年学研究科同窓会記念行事 シンポジウム 「地域共生社会実現に向けての老年学の貢献」

趣 旨

「超」少子高齢化社会の到来を受けて、子ども・高齢者・障害者などすべての人々が、地域、暮らし、生きがいを共に創り高め合うことができる「地域共生社会」の必要性が提言されています。さらにその実現のためには、制度・分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係を超越して、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超越して「丸ごと」つながることが求められています。

本シンポジウムでは、地域共生社会の実現に向けて解決・達成すべき課題に対して、老年学はどのような貢献が可能なのかを探るとともに、福祉および就労支援分野からの実践報告を題材に、今後必要な研究的および実践的な方略について考えていきます。

中谷 陽明 先生(基調講演・座長)

「地域共生社会」の概念が登場してきた背景・経緯を紹介しつつ、昨年末に厚生労働省によって取りまとめられた地域共生社会を推進する報告書の内容を概観します。そして、今後進められる政策的な動きの中で、老年学がどのように貢献できるかを考えていきます。

<報告>

■「特別養護老人ホームが展開する地域住民との交流」中村正人先生

1999年に開設した神明園ですが、建設計画時には施設コンフリクトを経験しました。ゆえに、地域に求められる存在となるべく地域住民との接点を模索し続け、紆余曲折の末現在進行している交流について紹介いたします。

■「社会福祉法人における地域住民の協働～地域とともに歩む福祉施設をめざして～」池田めぐみ先生

私が所属する施設では、地域と共に歩む姿勢を法人理念に掲げて、年間約5000人を超えるボランティアを受け入れ、敬老行事の秋まつりを始め、地域食堂、コミュニティカフェなどの社会資源を協働で作りに上げてきております。本報告では、その活動の一部を紹介します。

■「生きがい就業に年齢は関係ない～80歳以上が活躍するシルバー人材センター～」中村桃美先生

高齢者に生きがい就業の機会を提供するシルバー人材センター会員の平均年齢は70歳を超え、80歳以上会員の存在感も大きくなりつつあります。本報告では、年齢に影響されない生きがい就業の実態と「働きたいと思ううちはいつまでも」を実現するために必要なことについてお話しします。